

2012年11月23日

企画委員会

第一回「私の主張」の会が開催されましたので概要をご報告します。当日は三名の方から発表して頂きました。参加人数も21名と多く終了時刻は予定を1時間30分も過ぎ討論も活発に行われ盛会でした。第2回も予定しておりますので、皆様の発表・参加をお願いします。各発表内容については、近々学会WEBへ掲載する予定です。掲載時には別途ご案内します。

第一回「私の主張」の会概要について

1. 開催日時 2012年11月10日(土) 15:30~18:30
2. 開催場所 日本経済大学渋谷キャンパスマリア館3階131教室
3. 題目と発表者(発表順)
 - (1) もう一つのシステムアプローチ：社会問題解決の探求
情報システム学会理事 溝口 徹夫氏
 - (2) 人月ビジネスからの脱却
MBC 代表 ITコンサルタント 大島 正善氏
 - (3) 機能記述技法の提案(副題 ソフトウェア産業の3K化阻止のために)
歴史工房 明智 憲三郎氏
4. 「私の主張」発表要旨(発表順, 討論省略)
 - (1) システムアプローチは、過去に米国で考えられ兵器開発等に適用され成功している。技術的問題解決に有効であった。米国では軍事費の縮小に伴い産業界は社会公共システムの開発にシステムアプローチを適用したが多くは失敗に終わっている。社会問題へシステムアプローチを適用する場合に、費用対効果の様に定量的な側面のみが焦点となる結果、社会問題の持つ多面的な側面が見過ごされるとの批判も多い。システムアプローチを教育問題に適用する場合に、「教育と雇用」の経済的費用対効果を最適化する議論が多いが、もう一つのシステムアプローチとして「若者の豊かな人生を可能にする社会人としての生活意識、職業意識の自覚の育成支援のための教育の解決策を見つける」ことが有意義であると主張したい。
 - (2) 現在のSIビジネスは時代遅れではないか、発注者のビジネスへの貢献を共に享受するビジネス・スタイルへ変革する必要はないのか、ベンダーの情報システム開発見積は未だ人月単価がベースでありこれから脱却するにはどの様に考えて行けば良いのか、客観性のある見積へのアプローチ、IT投資妥当性を如何に測定するかについて試論を論ずる。

- (3) プロジェクトの状況悪化が結合テスト等の下流工程で発覚する現象は数十年来の傾向として継続していて改善が見られない。非機能要件重視がされて来ているが、機能について余り注目されていないが、前日のプロジェクト状況悪化原因が機能要件記述の不適に起因することも多く、オフショア開発時にも機能仕様の不備が多く指摘され非効率となっていることから改善すべきである。機能記述改善点は、記述の効率化・正確性を向上させることにあるので、機能記述技法を提案したい。機能記述の要点は、機能の定義方法・機能構造化法が中心となる。機能記述技法の良質な教科書を作り普及させることで情報システムの構築・保守・運用全般に亘る品質・生産性の飛躍的な向上が実現可能と考える。

(作成者：伊藤重隆)